

授業科目名・形態	ソーシャルワーク演習Ⅰ 演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	石岡 和志・小野 聡子 山田 克宏・阿部 俊彦	実務経験の有無	有	開講期	2年前期

【授業の主題】

ソーシャルワークとは何か（定義）、現代社会におけるその役割と理念・価値基盤を理解する。人と環境の接点・相互作用に関して、何に着目し、何を変革していくかについて社会福祉援助における「視点」を理解できるようにする。ミクロ・メゾ・マクロの焦点、個人・家族・組織・地域・社会の相互関係を理解できるようにする。

ソーシャルワーカーは、利用者をより深く理解することに加えて、援助者として関わる自分自身についての理解も求められる。本演習では、ソーシャルワーカーとして自己覚知を行うと共に、基本的なコミュニケーション技術や面接技術を体験的に学ぶ。

【到達目標】

- 1) ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。
- 2) ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。
- 3) ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。

【授業計画・内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ソーシャルワーク実践 ～ソーシャルワーカーの使命と役割の理解～
- 第3回 専門職としての価値・倫理と自己覚知
- 第4回 自分の生活史を作成し生活史把握の意義について学ぶ
- 第5回 自己理解、自己覚知
- 第6回 他者を理解するということ
- 第7回 基本的なコミュニケーション技術の習得①
- 第8回 基本的なコミュニケーション技術の習得②
- 第9回 これまでのまとめ、ロールプレイのねらいと方法
- 第10回 面接技法についての理解① ～観察・傾聴～
- 第11回 面接技法についての理解② ～面接の環境づくり～
- 第12回 面接技法についての理解③ ～面接等で得た情報の統合化～
- 第13回 記録技法
- 第14回 情報整理法
- 第15回 演習のまとめ～学習成果の振り返り～

【授業実施方法】

基本的には演習形式で行う

【授業準備】

演習内容を踏まえ復習を中心に行うこと

【主な関連する科目】

ソーシャルワークの基盤と専門職、ソーシャルワークの理論と方法、ソーシャルワーク演習

【教科書等】

長谷川匡俊・上野谷加代子・白澤政和・中谷陽明編：社会福祉士相談援助演習（第2版），中央法規出版，2015.

【参考文献】

必要に応じて授業中に適宜紹介する。

【成績評価方法】

授業態度（主体的な授業参加度を重視する）10%、提出物30%、ロールプレイ等への参加状況60%で総合的に評価する。60%以上の得点で合格とする。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

福祉施設で生活相談員として相談業務を経験
相談援助の経験を活かし、その人らしい生活ができるように必要な福祉サービスのあり方を伝えたい。

【学生へのメッセージ】

演習による科目のため必ず出席すること。また、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする参加型授業形態なので積極性を発揮してもらいたい。